

浪江町の怒り

「非常事態」となっている福島第一原子力発電所の汚染水問題について 国が全面的に責任を持ち政府直轄で解決することを求める意見書

2013年9月20日に福島県双葉郡浪江町議会が議決した意見書です。
安倍首相のIOCプレゼンテーションに対して、

(前略)

しかし、安倍総理の発言は事実に反する重大な問題があると考えます。
一つは、現実には地上タンクからは、大量の高濃度汚染水が漏れ、地下水を汚染し、
湾内に流出し、汚染水が防波堤の開口から外海へ流出していることは誰の目にも明らかである。
したがって「コントロール」「完全にブロック」などされていないということ。

二つは、原発避難は「健康に問題はない」どころか、原発事故から2年半が過ぎた今でも
「震災関連死」は浪江町だけでも290名を超え、県内では1,459名になり原発事故関連死は
いまま増え続けている。また放射線被ばくによる健康被害は被災町民のみならず県民、国民の
大きな不安となっている。

我々被災者が先の見えない避難生活に息苦しい日々を送っていることを「知らない」のなら、
「現場の声」を真摯に聞くべきである。復興が遅々として進まない現状を見ると、福島を
あまりにも軽視する政府、東電に憤りを禁じ得ないと同時に、安倍首相の無責任な発言に強く
抗議するものである。

(後略)

平成25年浪江町議会9月定例会の結果 より
<http://www.town.namie.fukushima.jp/site/gikai/201309-kekka.html>

この意見書を2013年10月22日の衆議院予算委員会で共産党の笠井氏が取り上げました。
そのときのやり取りを議事録から抜き出してみましょう。

衆議院ホームページ 予算委員会議事録より
http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index_kaigiroku.htm

笠井氏

総理は、この意見書の指摘をどう思われますか。

茂木大臣

総理がブエノスアイレスで申し上げましたのは、*The situation is under control.*
The situation ですから、それは状況なんです。状況のことを *situation* といいます。
そして、*is stopped* じゃないんです。全体が停止しているんじゃないで、*under control* なんです。
制御をされているということが極めて重要なんです。

そして、汚染水につきましても、ブロックされている、一定のエリアにとどまっている。
汚染水がないとは言っていないんです。*There is no contaminated water* なんていうことは
一度も言っていないんですよ。汚染水はあるんですよ。

そして、それをできるだけふやさないようにしていく。
そして同時に、汚染源を取り除く。六十三核種のうち六十二核種まで取り除けば、
これは危険度は減るわけですから、そういったことをしっかりとやっていきたい。

そのことにつきましては、国民の皆さんに対しても、さらには福島の方々の皆さんについても、
これからはしっかりと説明をしていきたい、このように思っております。

笠井氏

今の大臣のを聞いたって、国民の皆さんは誰も納得しないですよ。要するに、ごまかしですよ、
やっているのは。

総理、総理の発言について、町議会全会一致で意見書を出してこう言っているんです。
総理はこれをどう思われますかと、総理に聞いているんです。

安倍首相

今、茂木大臣から答弁をいたしましたように、私が *The situation is under control* と言ったのはそういう意味でありますし、先ほど私が答弁したように、状況についてしっかりと把握をしているし、さまざまな対策をやっているということでもありますし、そして、ブロックされているというのは、健康への影響について、影響は完全にブロックされている、こういうふうに申し上げたわけでございます、つまり、影響といえば、さまざまな基準値においてそれを超えるものが出たら、これは影響が出ているということになるわけでございます。

そこで、そういうさまざまな御意見もございますので、我々ももっとしっかりと説明していく必要がある、このように思うわけでございますが、同時に、先般お伺いをいたしました相馬市においては、その漁協の皆さんは、私の発言も含めて、しっかりとこれは風評被害を払拭してもらいたいということでありまして、彼らが試験的に操業している魚介類等には安全性において全く問題ないという結果が出ていますから、そのことはしっかりと、これはまさに内外に対して発信してもらいたいということでもあります。

そして、私がブエノスアイレスに行く前には、これはかなり報道等によって、あたかも大きな影響が人に既に出ているかのごとくの、そういう報道ぶりもあったのも事実でありますから、そういうものはしっかりと払拭をしていくことが大切だろう、こう考えたところでございます。

浪江町議会の意見書に対する答えが「これ」だと思えば涙が出てきます。
安倍首相・茂木大臣の2人が何を言っているのか考えてみました。

IOC総会でのプレゼンテーション（英語）

「Some may have concerns about Fukushima. Let me assure you, *the situation is under control.*

It has never done and will never do any damage to Tokyo.」

首相官邸HP(英語版) より
http://www.kantei.go.jp/foreign/96_abe/statement/201309/07ioc_presentation_e.html

この *the situation is under control* の意図は

茂木大臣：『「状況」が「制御」されている』

安倍首相：『「状況」をしっかりと把握し、さまざまな対策をやっている』

って、何を言っているのか分からないのですが。。

辞書（大辞林）によると

「状況」とは『時とともに変化する物事の、その時、その時のありさま、ようす』

「制御」とは『おさえつけて自分の意のままにすること』

つまり福島原発沖で起きている事態はしっかりと把握し、思い通りに出来ている、ということ？

原子力規制委員会の「海洋モニタリングに関する検討会」の議論を見れば

こんなことが大嘘であることは明白です。（1回目の内容は10月4日にここでご紹介。2回目の内容は近日中にご紹介）

プレゼンテーション後の質疑応答（日本語）

「**汚染水による影響は**福島第一原発の港湾内の0.3平方キロメートル範囲の中で**完全にブロック**されています。」

9月13日にここでご紹介しましたが、私が動画から文字起こし

安倍首相：『健康への影響は完全にブロックされている』

『様々な基準値を超えれば、それを「影響」と言うんだ』

「海洋モニタリングに関する検討会」第1回目での国立環境研究所の堀口氏の指摘によると、「蓄積」と「影響」はしっかりと使い分けなくてはいけない。

海水の核種が○Bq/Lなどというのは濃度であって「蓄積」（安倍首相のいう基準値もこれ）

一方「影響」とは、生き物が死んでしまったり、成長が阻害されたりとかそういう事をさす。

このことで、安倍首相はその辺が全く分かっていないようです。

ぐだぐだ書きましたが、結論。

こんなでたらめなゴマカシを全世界に発信し、

そのゴマカシを基礎とした事故対策をおこない、

あまつさえ再稼働・輸出しようとするのは、もはや国際的犯罪である。

安倍首相は即刻、国政から退場すべきである。

ということですね。